



浅間山麓

未来への遺産

Vol.76

浅間山の噴火

大正3年10月20日の噴火(絵ハガキより)

8月10日、浅間山が久しぶりにごく小規模な噴火を起こしたが、かつてたえず爆発していた。「ああ、またか」というくらいだ。過去200年以降、平均では3年に1度、昭和20年代には、ほぼ毎年噴火が繰り返された。

過去1000年の間には、2度の大噴火があった。最大規模の噴火は、平安時代の天仁元年(1108年)に起きた大噴火である。つづく規模の噴火がよく知られた天明3年(1783年)の大噴火である。

天明の噴火では1、500人もの人々が犠牲になったといわれるが、天仁の噴火でそれだけの人々が犠牲になったかはわかっていない。900年も前のことなので、しっかりした災害記録が残されていないのが実情である。

写真は、大正3年10月20日の噴火の写真で、絵葉書になっているものである。また、近所の食堂などにいくと、かならずといていほど浅間の噴火の写真がかさってあった。

天明のような大噴火がいつ起きるか、火山地質学の研究者に聞いてみた。おそらく数百年に一度という事で、さほど心配には及ばないとの話であった。



浅間山の噴火口

企画展

オレ! ギター展 Part II

9月12日(金)~9月15日(月)

(広告欄)

www.minebea.co.jp

ミネベアの強さと特色…その1 超精密加工技術

50年以上にわたるボールベアリングの製法で養われた、超精密機械加工技術は、ミネベアの競争力の源です。



ミネベア株式会社 ●本社・軽井沢工場/〒389-0293 北佐久郡御代田町大字御代田41106-73
TEL.0267-32-2200 FAX.0267-31-1350 http://www.minebea.co.jp

ボールベアリングという製品はいくつもの部品で構成されている代表的な精密機械加工品です。この基本構造は1世紀以上も変わっておりませんが、現在では、特にミニチュア・小径ボールベアリングは、パソコンを中心とした情報通信機器や家電製品などの性能や品質の決め手となる「高精度と高品質が絶対条件とされる超精密機械加工技術」となっています。精度の決め手となる要素は「外輪と内輪の溝の真円度」、「ボールの真球度」、「各製品の材質」などであり、これらの要素全てを徹底的に追求することにより、初めてボールベアリングの品質向上が可能となるのです。



みよた広報やまゆりは、環境保全のため、大豆油インキを使用しています。